

事業完了時の写真

ウガンダ西部における災害弱者のための災害・気候変動対応能力向上事業（2年次）

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



村の住民たちによる掘削作業の後。河道をなるべく直線的に修正し、今後蛇行するリスクを抑制する（チャランガ村）



石籠による護岸。雨季に流れてくる石や流木の滞積を防ぐため、今後、コミュニティ活動を通して継続した河道の清掃を行うことが重要となる（チャランガ村）



河道掘削時に集めた石を鉄線の籠に敷き詰めていく。2段の石籠を積み重ねて護岸を行った（チャランガ村）



小規模灌漑を視察。設置した末端水路を利用し、さらに灌漑域を拡大させる方法について話し合う（ニャムバレ村）



モデルグループへの実地研修。野菜の苗床の作り方を教わる参加者たち（ムブクII村）



防災クラブの子どもたちが発表した防災促進のための請願書に、県副知事や防災議連の代表者らが署名。防災への施策を促進することを確認した（カルサンダラ小学校／カバカ村）

洪水発生時には、村の災害対策委員会と準郡行政の連携による統括の下、避難所が設置された（カナンバ村）



国際防災の日の式典後、護岸工事の竣工を記し、県関係者、防災議連代表者、日本大使館からの出席者らがテープカットを行った（チャランガ村）